

第1回 松原地区のまちづくり有識者会議 議事要旨

- 日時 令和6年6月21日（金）14時00分～15時30分
- 場所 リンクステーションホール青森 4F 小会議室（1）
- 出席委員（7名） 青森県立美術館 美術統括監 池田委員
 青森公立大学 教育担当特別教授 内海委員（座長）
 青森市教育委員会 教育長 工藤委員
 有限会社クレイドル 社長 高樋委員
 青森市社会福祉協議会 会長 成田委員
 青森市町会連合会中部第1区連合町会 会長／松原町会 町会長 新岡委員
 八戸工業大学 准教授 福士委員

○案件

- （1）「松原地区のまちづくりビジョン」の策定について（資料1・資料2）
- （2）中央市民センター等の統合施設の建設候補地について（資料3）

1 事務局説明

- ・案件（1）について資料に基づき事務局より説明（資料1・資料2）
- ・案件（2）について資料に基づき事務局より説明（資料3）

2 委員からの意見聴取・質疑応答**【中央市民センター関係】**

（新岡委員）

- ・防災やまちづくりに関して松原地区で必要と考えた機能について、新しい中央市民センターへ漏れなく移行されるのであれば、現在の方向性に賛成したいと考えているが、これから地区の意見を聞いていきたい。
- ・現在の中央市民センター建物が建造された昭和44年に水害があり、松原地区も50cmほど浸水したことがある。近年は九州等で線状降水帯による水害も発生しており、仮に大雨で堤川が氾濫する等の水害が発生した場合に備え、この地区での避難場所は必ず確保しなければならないため、新しい中央市民センターは、垂直避難が可能となる防災機能を持った建物にしてほしい。

（工藤委員）

- ・現在の中央市民センターが市民文化センターであった頃、非常に多くの子ども達が集って時を過ごし、大人になった当時の子ども達が、今も中央市民センターで様々な文化的な活動をしていることを考えると、まさしく、一つの時代、役割を担ってきた中央市民センターであると感じている。
- ・現在は、少子化や遊び方の変化もあり、昔に比べ子ども達が集うことが少なくなっていると感じているが、ビジョン素案にある5つの必要機能イメージの中で、子どもの学習機能、歴史学習機能、スポーツができる多目的アリーナ機能の3つの機能を色濃く出せると、年配の方と共に、子どもも新しい中央市民センターを活用する機会が増えるのではないと思う。

(高樋委員)

- ・ 5つの必要機能について、全てを網羅すべきなのか、何を核とすべきかについてしっかりと議論する必要があると感じる。現有機能の利用状況や今後の運営方針等も含め、様々な面から「必要機能」について、今一度議論すべきと思う。

(福士委員)

- ・ 今年度のスケジュールは示されているが、次年度以降の実際の設計業務や、工事期間、スケジュールがどうなるのかという点が気になっている。
- ・ 施設の規模は景観や使い勝手に大きく影響するため、多目的アリーナの規模感について早めに詰めておく必要があるのではないか。

(事務局)

- ・ 多目的アリーナについての補足であるが、中央市民センター以外の各市民センターには、600～700㎡程度の小さな体育館が付属しており、中央市民センターは、講堂（約270㎡）はあるものの、体育館が付属していない。このため、避難場所としても活用できる他の市民センター同等の体育館を整備するというイメージである。

(内海座長)

- ・ 基本的な考えとして、公民館は利用者が様々な形で活動する場所であるため、中に物はなくても良い場所ではあるが、色々な機能を持たせるのか、それともこれだけはこの核を決めていくのか、さらに議論する必要があるため、次回の有識者会議で再度御意見をいただきたい。

【棟方志功記念館関係】

(福士委員)

- ・ 棟方志功記念館の建物現況調査について、詳細を伺いたい。また、建物の使用可能性を判断するタイミングと、ビジョン策定の時期が合致するのかどうか確認したい。

(事務局)

- ・ 棟方志功記念館の建物現況調査の内容は、建物コンクリートの劣化調査、屋根外壁内装のほか、給排水設備の劣化不具合等の調査、建築基準法やバリアフリー法等関係法令の適合調査を基本としている。耐震については、平成19年の調査時には問題はなかったが、現在の状況について改めて調査している。

(新岡委員)

- ・ 棟方志功記念館の閉館の理由としては、県立美術館へ統合すべきという状況で、コロナ禍の影響による観客の減少、災害が発生した場合に老朽化した建物では作品の保管が難しいという状況であったことが挙げられると聞いている。
- ・ 閉館の報道後は非常に多くの来場があり、コロナ禍前に戻ったような状況であったと聞いている。
- ・ 棟方志功記念館について、現在の市の方向性については、概ね賛成である。
- ・ 松原地区としての考えは、観光客等がここに来たら、棟方志功のことがすべて分かるという場所になってほしい。
- ・ 棟方志功記念館を活用する上で、バリアフリー化やエレベーターの設置を検討されているのか伺いたい。

(事務局)

- ・バリアフリー法等の関係法令の適合調査結果をみた上で、必要に応じてバリアフリー化する必要があると考えている。

(内海座長)

- ・次回の有識者会議では、東日本大震災以降の震災の影響も含め、棟方志功記念館の建物現況調査の状況等、分かれば示していただきたい。

(池田委員)

- ・ビジョン素案の具体的対応案の中で、「青森ゆかりの文化・芸術家の業績を学び」とあり、棟方志功も非常に大事であるが、青森市の所有する豊かな文化資産の中には、青森の他の芸術家達（小舘善四郎、関野準一郎、阿部合成等）の作品や、こぎん等の美術的価値の高い民俗史料もあり、棟方志功もそうした周囲の芸術家や文化資産の中で彼の芸術をつくってきた歴史がある。来年は棟方志功の没後５０年に当たるが、１００年前の青森市では、上京しようとしていた棟方志功が、古藤正雄、鷹山宇一、松木満史といった芸術家と青光画社を立ち上げて展覧会を行ったり、棟方志功が上京資金を集めるため花屋で売っていた作品を太宰治が購入したというエピソードが残っていたりと、様々な文化人の若いエネルギーが渦巻き活気にあふれた場所であった。そうしたことを思い起こしながら、棟方志功だけに捉われず、広く青森市の豊かな芸術を引き継いで、未来に向けて、立体的に文化芸術の振興を学ぶ場所であってほしいと考えている。
- ・そのためには、建物だけではなく、未来に伝えていく学芸員、キュレーター、教師等の人材が必要になるため、人をしっかりと配置できる体制を含めて考えていくことができれば、松原地区は再び人が集まる場所になると考えている。

(内海座長)

- ・作品を分散させないため記念館を作って集めておくという考えがある一方、全く違う考え方として、八戸ポータルミュージアム「はっち」ではフィールドミュージアム構想に基づき、八戸市全体を博物館と捉え、はっちはその玄関（ポータル）であり、あちこちに様々な作品があり、観光資源としても活用するというを行っている。今回の場合においても、様々な文化芸術を、松原を拠点として広げていくのか、あるいはあえて分散させるのか、両方の方向性があり得るのではないか。

(高樋委員)

- ・アートセンターである国際芸術センター青森との連携ができるのではないか。

(服部委員〔当日は欠席〕)

- ・秋田県では、１９６７年に建てられた秋田県立美術館が２０１２年に新築移転される際に、旧県立美術館の建物が県から市に譲渡され、２０２１年に秋田市文化創造館という市民が利活用できるアートセンターとしてリノベーションされた。秋田市文化創造館では、専門スタッフがある程度の人数しっかり雇用されている。
- ・棟方志功記念館を、版画を中心に青森の芸術文化に親しめる場所にするという方針は良いと思う。観光だけではなく市民が利活用できる部分もあると良いと思う。

【統合施設の建設候補地関係】

(福士委員)

- ・建設候補地①の場合、旧市民図書館の建物は解体するのか。同じく建設候補地②及び③の場合、現在の中央市民センターの建物は解体するのか。

(事務局)

- ・ファシリティマネジメント上は、使用の可能性がない建物は解体することが基本となるが、解体の有無や時期等については、市の財政状況等を考慮し決めていくことになる。土地を駐車場等として使用する場合は、現在の建物を解体するという検討もあり得るが、今後設計段階で判断していくこととなる。

(内海座長)

- ・建設候補地③を採用する場合は、旧市民図書館を積極的に解体し活用するという判断になるのではないかと。

(高樋委員)

- ・建設候補地③が良いのではないかと。
- ・旧市民図書館の敷地はあまり広くないため、ビジョン案に記載されている必要機能を全て網羅することが可能なのか、必要機能を絞る検討をした方が良いのではないかと感じる。
- ・仮に現在の中央市民センター建物を解体し、結果的に駐車場としてそこまでの敷地が不要となった場合に、仮に土地を一部売却した際、その土地の購入者によっては、文化ゾーンである松原地区にそぐわない施設が建つ可能性もあるため、将来的な見通しをもって計画する必要があるのではないかと考える。

(福士委員)

- ・建設候補地①～③のいずれのパターンにおいても、行き来のため道路をまたぐ必要が生じると思う。
- ・対象地として赤枠で囲っており、工事の対象自体は赤枠の中だと思うが、計画自体、もしくは条件付けとして、ある程度、周囲の小学校、高校、もしくは勤労者プールなど周辺エリアのことも考慮し、赤枠の範囲外も歩けるような形のビジョンにしていくべきではないかと思う。

(工藤委員)

- ・駐車場を確保しつつ、棟方志功記念館の庭園や、近くの堤小学校等の施設と一体的に行き来できる形で建設できると良いのではないかと。特に青森市は冬期間の積雪があるため、一つのエリアで複数の施設間を行き来できると賑わいが創出されるのではないかと。

(服部委員〔当日は欠席〕)

- ・建設候補地③の構成案が良いと思う。

【施設共通・駐車場関係】

(成田委員)

- ・青森市社会福祉協議会で子どもから高齢者までを対象とした事業を実施している中で、子どもの場合は、施設・建物の使用で不都合があっても工夫でなんとかできることが多いが、高齢者の場合はなかなか難しいため、高齢者や身体障がい者の方を意識したバリアフリーの設備を検討していただきたい。また、冬期間には思わぬ事故等が起こりやすいため、特に留意

して検討していただきたい。

(内海座長)

- ・冬期間、中央市民センターの除雪対応はどのように行っているのか。積雪により、駐車台数が減るという状況はあるのか。

(事務局)

- ・日常的には職員が除雪機を用いて除雪しており、雪がたまったら業者が除排雪を行っている。駐車台数が減らないよう努めてはいるが、短時間で急激な積雪があった場合に一時的に減ることはあり得る。

(内海座長)

- ・駐車場は冬期間の除排雪対応も含めて、土地を有効活用するということで、広く取ったほうが良いのではないかと。また、施設利用者以外も駐車場を利用可能とし、駐車料金を徴収する仕組みとするなど、収入を得ることも考えていく必要があるのではないかと。
- ・防災等の観点から、地下の活用についても検討が必要ではないかと。
- ・松原地区という全体で考え、そこから色々なものを発信できる形にすること、また、20年、30年先を見通しながら、世代を超えて皆が利活用できるデザインを考えていく必要があるのではないかと。

(服部委員〔当日は欠席〕)

- ・中央市民センターの場所がすべて駐車場になるのは、景観面を含め、勿体ないと感じる。例えば、駐車場を地下にして上部は公園や庭園のように使える場所としたり（近隣に公園はあるが）、一部分を2階建て程度の駐車場として、公園のようなものと一体化させるなどはないかと。